

1. わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。(15:1)
 - a. イエスの7つの“I am”(神性宣言)の最後が「まことのぶどうの木」である。
 - b. イエスがぶどうのイメージを使われているのは特に変わったことではない。旧約ではぶどうの木はイスラエルの象徴であった。イエスの時代、誰でもアブラハムまで家系をたどることさえできれば神とつながっている、という間違っただけの理解があった。
 - c. イエスはここでまことのぶどうの木という言葉を使い説明されるが、要点は、イエスにつながることによってのみ、豊かな人生が得られる、ということである。

2. わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶ者はみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことによって、もうきよいのです。(15:2-3)
 - a. イエスは実際にぶどう園を歩きながらこの話をされたのかもしれない。このたとえをイエスと弟子たちとの関係、という観点から読むと、この2節の言葉はほとんどの人が考えるような消極的な意味でとらえる必要はない。
 - b. 「取り除く」という言葉には、ギリシャ語では持ち上げる、取り上げる、などの意味がある。良い農夫が実を結ばない枝を持ち上げるという行為はぶどう栽培の世界においてもぴったり当てはまる。
 - c. ぶどうの枝が実を結ぶには地面から持ち上げられ伸びていくためのぶどう棚などが必要になる。つるが伸びて新しい枝が分かれてくるとこれらの新しい枝は持ち上げられなければならない。良い農夫はすべての枝が実を結ぶようにできる限りの世話をし、無駄になる枝が出ないようにする。
 - d. 同様に、私たちを救うためにひとり子イエス・キリストを惜しまずに与えてくださった神も、イエスにある私たち一人一人を心に留めておられ、持ち上げ、刈り込み、きよめてくださる。

3. わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、私にとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。(15:4-6)
 - a. イエスは新しい枝を持ち上げながら神が私たちになさることを説明し、今度は刈り込みがされた枝を指して、これがさらに実を結ぶために必要なことなのだと話される。
 - b. 実を結び続けるための秘訣はあまりにも単純である。ただ一番大きな幹につながっていれば良い。「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。」ただしそのコンセプトは簡単だが、実行するのは難しい。私たちは効率性とスピードの世界に住んでいる。速ければ速いほど良い、インスタントダウンロード、5Gスピード、もはや「待つ」という概念はない。
 - c. しかし、神から見て豊かで実を結ぶ人生を送りたければ、イエスとつながっている訓練が必要である。イエスと多くの、そして質のある時間を過ごすことである。